

科目名	聴覚障害者の言語障害指導【社福】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	今 村 亜 子						
開講年次	3	開講期	前期 (集中)	単位数	1	必修・選択	選 択
授業の概要 及びねらい	聴覚障害についての基礎知識を学び、言語やコミュニケーション障害との関連を理解する。 言語障害に対するアプローチ（評価、指導方法）について学ぶ。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 聴覚障害と言語障害の関係について、理解する。 2) 音声と聞こえ、言語モードについて説明できる。 3) 早期教育について述べるができる。 4) 言語指導方法、評価方法について体系立てて説明できる。						
学習方法	講義、レポート、グループワーク。DVD、VHS、音声カセットテープ教材、パソコン使用						
テキスト及 び参考書等	「聴覚障害児の言語指導～実践のための基礎知識～」我妻敏博著（田研出版）／配付資料あり						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○					5	
宿題・授業外レポート	○					5	
授業態度			◎			10	
受講者の発表				◎		10	
授業への参加度			○	○		10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	聴覚障害の基礎知識						
第 2 週	音声と聞こえの基礎知識						
第 3 週	ヘレンケラーはどのように教育されたか						
第 4 週	言語指導の基礎知識						
第 5 週	早期教育の基礎知識						
第 6 週	学童期～青年期						
第 7 週	言語能力と指導法の基礎知識						
第 8 週	言語能力評価の基礎知識						
第 9 週	定期試験						
第 10 週							
第 11 週							
第 12 週							
第 13 週							
第 14 週							
第 15 週							
第 16 週							
備 考	講義では実際に、聴覚に障害がある人とのコミュニケーションを装丁しながら、考察し発表するプロセスを重視します。聞こえないという状態を理解するために想像力も働かせて下さい。						